

勤労青少年が学んだ

札幌遠友夜学校

新渡戸稲造・萬里子夫妻が創立した「札幌遠友夜学校」を紹介します。

働く青少年の憩の場として昭和三十九年に開設されたLet's中央（中央勤労青少年ホーム・南四東四）。この建物は、今から百年ほど前の明治二十七年（一八九四年）に新渡戸夫妻が創立した「札幌遠友夜学校」の跡地に建っています。

「遠友」の言葉は、孔子の『論語』の中の「友あり遠方より来たる、また楽しからずや」から由来したものです。夜学校は、貧家の子弟、労働する子弟の夜学校教育に対する新渡戸の情熱が実現したもので、昼間学ぶ機会のない職工や給士、店員な



新渡戸夫妻

どが通っていました。教師は札幌農学校（現在の北海道大学）の学生と職員が主で、無給の奉仕、生徒の授業料も全部無料でした。教師の中には、一時有島武郎の姿もありました。夜学校は、当時としては珍しく男女共学で授業を行っていました。そして、昭和十九年に五十の学校の歴史に幕が下ろされるまで続きました。

Let's中央の入り口には、新渡戸夫妻のレリーフが刻まれた花輪を持って立つ、たくましい青年の銅像があります。また、建物の中には「新渡戸記念室」が設けられており、夜学校が開かれていた当時をしのぶことができます。

（平成六年三月号・第九回）



遠友夜学校校舎「大正12年頃」
—Let's中央所蔵—